

よく考え，すすんで学習する子供の育成

～「活用学習」と「学級力向上」をもとにした言語活動の充実を目指して～

I 主題設定の理由

昨年度の研究では，言語活動の充実を目指して聴き取る力と伝える力を両輪とした対話力を身に付けることで，学びが深まっていくと考え，研究を進めてきた。今年度は，今日的な課題が多く見られ，必要とされる力である，「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成すること」を中心に研究を進めて行きたいと考え，以上の能力を育成するための手段として活用学習に焦点を当て，さらに活用学習を効果的に進める学習環境づくりの手立てとして学級力向上の取り組みを行うこととする。

II 研究仮説

学級の学習環境を整えることと活用学習の場を設定することで
言語活動を充実させ，よく考え進んで学習する子供が育成できるであろう。

III 研究の具体的な内容と方法について

研究（1）

- ①活用学習について学習会
- ②活用学習をもちいた授業の教科研究
- ③活用学習の系統化
- ④活用学習ブロックの研究会
- ⑤授業実践
- ⑥一人一実践の取り組み
- ⑦ミニ実践講座（全教職員の授業実践の報告）

研究（2）

- ①学級集団の実態把握
- ②学級力向上のための実態調査
- ③学習しやすいクラスの雰囲気作り
- ④学級力向上への授業の取り組み
- ⑤QUを生かした学級経営（講師を招いての学習会，学級経営の省察と構想）

IV 研究実践

1 学習会

「学級力から学力向上へのアプローチ」

講師 山梨市学校教育課 指導主事 中村 雅彦 先生

「QUを生かした学級経営について」

講師 塩山中学校 教諭 藤原 祐喜 先生

2 検証授業（活用学習）

（1）第4学年2組 算数科授業実践「わり算の筆算」（活用学習）

授業者 日原 英二

（2）第3学年 算数科授業実践「かけ算の筆算を考えよう」（活用学習）

授業者 中根 淳

(3) 第2学年2組 学級活動授業実践「学級力向上プロジェクト」
～よりよい学級をめざして～ (学級力向上)

授業者 中村 悦美

(4) 第6学年1組 学級活動授業実践 学級力向上ファイナルプロジェクト
～卒業までにつけたい3つの力～ (学級力向上)

授業者 橋本 尚一

3 一人一実践(授業改善プラン)

4 ミニ実践講座(実践例)

「係活動についての取り組み」

「日本語のアクセント, こんなに変わった日本史」

「進んで学習する子供を育む詩の授業」

「書くことの日常的な取組」

「日常生活における SST の活用」

「自然とのかかかわりについて」

「災害における日常的な取組」

～生活科を通して～

「ipad の活用 プレゼンテーション」

「特別な支援を要する児童の指導」

「社会の情勢を見通す目」

V 成果と課題

1 成果

研究の成果については、理論研究、ブロック研究をもとに4回の検証授業を実施できたことは大きな成果である。

活用学習についても先行研究を基にブロック長を中心に理論研究、教材研究を行い、活用学習の考え方をブロック研究をした先生方に広げることができた。テーマにある言語活動の充実という視点に立ってみると2つの検証授業の中にも多くの書く活動を取り入れ、子供たちが自分の考えを書き、説明する活動を行う様子からテーマに迫ることができたと考えられる。

学級力向上については、文献、先行研究を基にブロック一丸となり、理論研究、教材研究を進めた。学級分析を視覚的にとらえ、指導に生かすことの優位性については、研究授業の子供たちのワークシートの記述から見て有効であった。言語活動の充実という視点においても、実践で意識して取り組みテーマに迫ることができていたと思われる。

2 課題

研究の課題については、研究を進める上で2つの機能的なブロックに分けたことで初年度の研究が進めることができたといえるが、反面、2つのブロック間の交流の時間が取れないという弊害も生まれてしまったことも事実である。来年度の組織編成についてこれから考えていかなければならないと思う。

学級力向上の取り組みについては、学級の問題を解決するだけでなく、学力向上のための大切な要素と考えている。今年度はブロックの研究であったが、長い期間の取り組みであるので、学校全体で計画的に取り組むことように計画をしていきたい。

(研究主任 日原 英二)